

ロチェスター工科大学の寮に所属する生徒は、必ず一学期ごとに食事に関する契約（Meal Plan）を結ばなければならない。これは寮施設に隣接した大食堂を利用するためのものである。契約内容によって大食堂の利用回数を変更することができ、回数に応じてそれぞれ異なる前納金残高（Debit）を得ることができる。それぞれ同じ金額 1,238 ドルで、寮生は以下の契約のうち一つを選ぶ。

1 学期における大食堂の利用回数を無限に得る。

毎週の利用回数を 14、12、10 回とし、その回数に応じて Debit を得る。

全金額を Debit として得る。ただし、一年目の学生はこれを選ぶことができない。

私や転校生、もしくは英語教育だけのために寮を利用する生徒はどの契約も選ぶことができるが、大概は全金額を Debit として契約する。大食堂は入場時に料金を支払えば退場するまで際限なく食べることができるが、その入場料金は、6.71～8.91 ドルと一食の金額としてはかなり高い。また、食事の種類も一部を除いてほとんど変わらないため、他の食事施設も併せて利用する学生がほとんどである。

大食堂以外の食事施設は、授業棟や居住施設の近くにいくつかあり、他にも喫茶店、食料品店、アイスクリーム店、自販機などがあるため、学内のみでも多種にわたる飲食環境が整っている。これらの施設での支払いは、現金はもちろん Debit での支払いが可能のため、私は大食堂よりもこれらを利用することのほうが多い。

Meal Plan の金額から換算すれば、学内に住まう学生の食費は毎月 400 ドルを超えることになる。これは一般的なアメリカの食生活とはかけ離れた金額であるといえるだろう。寮に住まう学生は、自炊する環境をほとんど得ることができない。寮施設内に台所があることは確認できるが、大概の階層には水道と電子レンジだけというものしかなく、ガスコンロなどがあることはごく稀である。したがって、寮生の食事は大食堂をはじめとした施設を利用することになる。これらの利用は外食とほぼ同様なため、一度の食事における出費は、最低でも 6 ドルを超えることがほとんどである。さらに、学外での食事で現金を使うことがないとは限らないため、寮生の食費は多大な出費となることが予想される。一方、学外に住まう学生は、その半分にも満たない食費で生活を送ることができる。アメリカの食品は既製品や惣菜などは日本とほぼ同額だが、生鮮食品は破格で購入することが可能であるため、アパートなどの自炊できる環境にある学生は、それだけ安価に食事を取ることができる。知り合いの学生からは、一月に一度、100 ドル前後で食料品を買えば、それだけで自宅内での食事をまかなうことができるという話を聞いた。

学内では、食事ほかに、教科書をはじめとした書籍、文房具、画材、コンピュータおよび周辺機器、RIT の文字が入った服飾品、日用雑貨などを買うことができる施設が設置されている。これらの値段設定は、学外の商店に比べて安いというわけでは決してない。さらに、学外のショッピングモールやデパートでの値段設定についても日本に比べて安いとは言えるものではない。特に電化製品、服飾品、家具等は、品質によって値段が明確に分かれており、日本のような特別安い値段でよい商品を買えるという機会は少ない。したがって、買い物で浪費を抑えつつ良い製品を買うためには、特定の安価な量販店をよく利用するか、高価な物品であれば、商店や個人でよく行われている中古品の売買を利用することも一つの手段である。

大概の買い物は学内外で済ますことができるが、各寮生にも郵便物を受け取るための私書箱が与えられるため、インターネットなどでの通信販売を利用することが可能である。本大学はロチェスター郊外の商店街に近いので、大学からのバスを利用するか自動車を運転することができれば、さほど大きな時間をかけることなく買い物を済ませることもできる。したがって、ロチェスター工科大学での生活は十分に簡便である。